

平成 27 年 10 月 22 日（木） 幸校区 タウンミーティング 参加者 52 名

【市長との意見交換】

市民： 地区内施設の必要性について。地域から挙げている課題としては、和泉市の躍進プランの中で、にじのとしょかんと青少年センターのあり方について検討すると聞いている。地域においてこの両施設は、これまで地域の様々な課題や北部地域の方々を支援してきた核であると思う。長い歴史の中で継承し発展してきた、経験を培ってきた、2つの施設だが、現在でも重要な施設と考えている。今後、市営住宅の建て替えという話もあるが、街づくりの観点からみても必ず必要な拠点施設と考えている。人権の視点においても、地域内外の交流の場になっており、その中で市民1人1人の人権意識の高揚、人権課題への理解、差別の撤廃などの人権社会の実現に貢献してきたと考えている。地域としては、2つの施設の継続を強く求める。

市長： 基本的には、北部リージョンセンターの図書館ができて、にじのとしょかんのあり方を検討していくとなった。もともと北部リージョンセンターに図書館を作る予定はなかったが、地域のご要望をいただいて作った。これからどうするか、決定ではないが、これから話をして決まっていくと考えている。1つ造ったら1つ見直しをする。非常に豊かでなんでもやっているといいが、税収は変わっていない。1つをしたら1つをやめるなど違うところで財源を生み出していかなければいけないので、そこはまた話をさせていただく。

青少年センターも同じこと。他の校区だと学童保育なかよしクラブなどの支援をしており、学校に移せる部分は移してやっていきたい。その辺も話をさせていただいて、行政サイドで一方向的に決めるということはない。

市民： 青少年センターについて、市長からあったように、学童保育の役割も担っているが、これまでこの地域の子供たちは、比較的しんどく、子どもたちの貧困が全国的に話題になっているが、昔からしんどい子どもが多かった。今も市営住宅が集中する街で、比較的所得の方が多いということで、やはりその影響が子どもたちにもかなり出ている。そんな中で青少年センターがこの地域にあって、子どもたちに果たす支援の役割はかなり重要なものになってくると思う。あり方を検討していただくときに、廃止云々よりも、子どもたちのことを一番に考えていただきたい。それと、ここまで培われていた経験と果たしてきた役割を市全体に広がっていくように、学童保育だけではなく、子どもたちを支援してきた経験を市に広げていただきたい。

市長： よくわかるが、いろいろと教育にも十分取り組んでおり、今は青少年センターで培われてきた経験を広げていくという方向性はない。それ以外のことで教育に取り組んでいる。確かに、しんどい子どもが多いというのは認識している。それを解消していくのに、単に受け入れる施設を造るというのではなくて、市営住宅の建て替えもしていかないといけないので、街づくりをいかにしていくかということが大切だと思う。

ある程度豊かになったら引っ越していくとかではなく、受け皿を街全体で、支援住宅を高層にして、高度利用して、近くに分譲住宅をつくるとかいろんな方法を考えていかないといけない。地域のコミュニティが途切れないうような、住宅の建て替えなど、皆様と相談して、市からも提案している。そういう街づくりを進めていけば、教育レベルも上がっていくのではないかと。まだ構想もいってない段階で、はっきりしたことは言えないが、街づくりそのものを考えたい。

市民： 確かに青少年センターの果たしてきた役割は大きいと思う。今年、組合長になったが、役員をやってくれる人が非常に少ない。10年20年かけてコミュニティを形成していくという意味では、その過程が大切。今の子どもたちが大人になったとき、どのような社会になっていくかという建設的な話をしなければいけない。しんどい子どももいるが、今の時代パソコン一台で世界へ飛び出せる。ラインのスタンプ作っただけで年間何千万も稼げる時代になっている。地域がどうこう言うよりは本当にその人たちの能力や機会を見つけていくことが大切だと思う。だからこの地域でもパソコン1台インターネットにつながっていたら、大きなお金を作る人もでてくるかも。ただ作れないのはコミュニティである。青少年センターがあるから全部お願いしてきたということがあると思う。

役員になってくれる人がいないということは、子ども会を世話する父兄、PTAの層が育っていないということ。役員を引き受けるとか、子どもたちのために何かするとか、行動をとれるかといったものが必要になってくると思う。青少年センターがあるから大丈夫、ではなくてコミュニティを形成する仕組みが必要。

市長： 行政がコミュニティの形成をするということとはたぶんどできない。

市民： 青少年センターを守りたいという気持ちはわかる。助かっている人たちもたくさんいる。それにおんぶに抱っこしてきた感覚がある。青少年センターのあり方としては、もうちょっと違ったアプローチをできるセンターとして存在してほしい。父兄も交えて地域に対して何かを企画する場であってほしい。できればこの地域に子ども会、父兄の会が育ってきて、その人たちが自分たちでコミュニティを形成する仕掛けづくりをお手伝いするセンターであれば非常にありがたい。子どもたちが10年たって大きくなったら、自分たちがこの村で育ってきたのだから、新しい子どもたちのために、PTAもいっしょに世話をしようという人が出てきて、組合や自治会の役員でもしようと思うような人が育つような地域になる。青少年センターの運営として、そういう仕掛けをしてもらえるセンターであってほしい。

市長： おっしゃる通りだと思う。ここだけではなくどこの自治会でも課題があり、役員のなり手がいない。

市民： 図書室については、躍進プランにおいてあり方を検討し、方針決定後に反映するとなっている。実際パブリックコメントも募集されたが、高齢者や子どもなど、その場で意見を言いにくい人の意見が汲み取れてない。利用者でにじのとしょかんが

この対象になっていると知らない人もいる。廃室が決まったという間違っただけの情報も広まったということもある。人権文化センターの広報物にあり方検討で、皆さんご意見をお寄せくださいという記事や室内掲示もなかった。自分から市役所に意見を届けにくい人の声も集めて検討いただきたい。

2点目、最近、ツタヤ図書館の問題がありますが、立地、地域性、地域ニーズ、利用者の状況を大事にせず、経営的観点、書類上の数値だけで判断していくことは問題でないか。あの図書室は、人権文化センター、解放総合センターの取り組みの中でできた図書室で、リニューアルして15年経つが、利用者はもとより、図書室のスタッフの方、ボランティアの方で今のいろんな事業が成り立っているわけで、機械的な市立図書館に似た配置だけでそれを閉じてしまうと、それをつぶすことになるので、この件も十分検討材料として判断いただきたい。

人権文化センターとしても、日常的に来館者が来る施設として、にじのとしょかんが重要なので、図書館だけの問題でなくて、人権文化センター自体の活用を下げることになる。

市長： ご意見を参考にさせていただく。市立図書館は2つあり、あとリージョンセンター南部と北部にあるが、機械的ということではなくて、ボランティアの方に入ってきて、心のこもったいろんな催しを行い、それを大切にしてきたので同じである。

市民： にじのとしょかんは、先ほど言われた地域のコミュニティの問題にもすごく関わっていると思う。この地域は子育てにとてもしんどい地域で、富秋中学校校区でにじのとしょかんができる時、人権文化センターがリニューアルする時に大人の願い、教師の願いとして地域に図書館を作ってほしいと要望し、本に近い子どもを作りたいという思いが大きかった。図書館ができたからといって一長一短に、本に親しむということは難しいが、本にかかわる生活というのが少しずつ根付いていると思う。確かにフチュールもあり、反対側に北部リージョンセンターもできたが、この地域だからこそ、図書館は必要ではないかと思う。

市長： 市も認識している。にじのとしょかんのそういう情報は入ってきているが、和泉市の一つの地域であり、同じように市民サービスをしていかないといけない。この地域だけ特別ということではできないので、その中でできることを検討している。おっしゃることは重々わかっている。

市民： 図書館としての立場が違うということもある。

市長： 北部、北西部、中部、南部を平等に考えている。和泉市とシティプラザ図書館とフチュールの大きな図書館が2つあり、北部と南部リージョンでそれをサポートしていく。あと小学校中学校にも図書室があり、司書とボランティアの方が運営していて、図書に親しむ制度を充実させていく。同じようなにじのとしょかんをあちこちに作るわけにはいかないなので、そのなかでどういう位置づけでしていくかを検討している。おっしゃっていることは十分わかっており、検討している。

市民： いったんできた図書館を 15 年で閉めてしまうのは、大変残念だ。

市長： 全体的な考えの中でどのようにしていくか考えていく。

市民： 本当ににじのとしょかんを存続させたかったら運営費半分を地元負担するなど、市として運営費を公平に出さなければいけないので、その地域だけ多いとなると行政としては難しいと思うので、地元が運営費の半分を負担するというと、たぶん行政としては説得しやすくなるのでは。

市長： お金だけの問題だけではなく、いろんな状況もあるかと思うので、またお話しさせていただく。

市民： こちらが本当に図書館を存続させたかったら、それくらいの腹積もりは持たないと前に進まない。

市民： この幸校区で一年間に赤ちゃんが 20 人生まれると言われている。10 年間で 200 人。幸小学校は 800 人規模で作った学校が今は 160 人余。街づくりを考えると将来 10 年 15 年ここで暮らしていくので、もっと人口が増えないといけないと思う。市営住宅はどんどん空き家が増えて、若い人が出て行って、お年寄りが増えている。家賃について所得制限があって、若い人が出ていかないといけない状況がある。市営住宅の家賃、所得制限も大事だが、若い人が幸校区に住めるようにしてほしい。

災害時に 4 階から高齢者をおぶって下へ降りれない。若い人が定住できることを考えると、市長の裁量で、家賃を少しでも安くして頂くことをお願いしたい。

市長： 高齢化少子化は全国的なことで、国も挙げて対策しているが、市も子育てのしやすい街づくりをしている。家賃が安いと若い人が住むのとイコールではないように思う。たとえば、はつが野校区は大変高いです。土地と家で 6 千万位する。分譲を 27 件したが、すべて子育て世帯でこどもが 0 歳から 15 歳までの 40 人。若い方が安いから住むというのではなくて、魅力ある街づくりをしていく必要があって、市全体で市営住宅が 2100 戸あるがそれだけ必要かどうかとも検討して、質の高い、住みたくくなるような住宅、住宅の空地に分譲の住宅を造るなども検討したい。

非常に幸校区は便利なところと思う。信太山の駅もすぐ近くにあるし、働きに行くのに何の不便もない立地条件と思う。やはり子育て世代が少ないというのは街の魅力の点で、何か改善していく必要があるのではないかと思っている。

これから市としても庁舎を建てたり、病院を建てたり、経費がいるが、長期的な計画を立てて、建て替えて余った土地を売ったら建て替え費用が出てくるという方法もあるので、工夫しながら住みたくなるような街づくりを皆さんと相談してやっていきたいと思う。

市民： 高石では「新婚さんいらっしやい」の制度がある。

市長： もうしてない。効果はなかった。もらえる期間だけ来て、引っ越していく。

市民： 地域としてはハード面もソフト面も考えながらやっているが、コミュニティのバランスを考えて、教育とか伝承文化や人権の問題などを考えながら差別のないまち

をつくってほしい。

市民： 市営住宅は人がなかなか入ってこず、年寄が死んでばかり。立ち退きの話は 3 年前から聞いているが、いつごろやってくれるのか。死ぬまで待つのか。若い者にこっちへ来てもらって一緒に住んで、何かをやるかという雰囲気も、人の温かみもなくなってきている。耐震の調査をして、危ないところもわかっているのに、そのまま住まされている。弱い者が死ぬのを待っているようだ。建て替えなかったら若い人も入ってこない。家賃もあるが住宅を建て替えないと誰も来ない。

市長： 建て替えの計画はある。順次いくつか建て替えている。次くらいに幸校区の住宅にかかるが、全体的なまちづくりをどうするか決めないといけない。

市民： 当初 28 年説明会、32 年くらいに工事にとりかかるとあった。

市長： 今まだ検討しているところ。和泉市だけでなく、全国的に公共施設の鉄筋建物の耐用年数が来るので、これから 20 年間小中学校、市営住宅を一気に建て替えていく必要がある。いくら建て替えても市が破たんしてはなにもならないので。計画が少し遅れてくるのは致し方ないと考えている。計画をたてて必ず建て替えはする。

市民： 最後に意見だけ、市長のお答えの端々に「地元の街づくり」は住んでいる人が基本やっていくことで、市がやることではないと。幸校区の街ほとんどが市営住宅。今住んでいる高齢者は心配ないが、若い人がそこへ住むと、ずっと住みたいと思っても所得が上がると出て行ってくれというシステム。空き家には、また所得の低い人が入るという循環になっている。だからそこで育った街の町会を担ったり、街づくりを進めるようなところまで住み続ける街にはなっていない。誤解を恐れずにいうと、他の地域とは違って、特別に何かの施策、予算とかではなく、工夫が必要だと思う。スタートの地点で劣っているので置いて行かれる。他の地域と違う工夫をお願いしたい。そのためには行政が積極的に関わっていただきたい。市長の考えのどこかに地元の方が努力しないといけない、街に魅力がないから若い人が出ていくという意識があるなら、払拭してほしい。そういうシステムで出ていかないといけなくなっているとご理解いただきたい。地元の青少年センターやにじのとしょかんもそこを変えるために行政がこれまでやっていた工夫の一つで、お金かかるし、どこでも造れるご時世ではないとわかっているが、必要なものは残さないといけないし、新しいことに切り替えていかないといけないというなら地元も協力しないといけない。特に、次の市営住宅の建て替えが次の街づくりのチャンスとっているので、たとえば分譲とか、マンション、そういう多様な住宅の供給、低所得者向けの今の住宅も必要ですが、永住できるような魅力のある住宅供給も一緒に街づくりの中で造ってほしい。